

信州上田 川西紀行

川西まちづくり委員会事務局
〒386-1106 上田市小泉863-1
川西地域自治センター内
電話080-5827-9724

E-mail
kawanishi.machizukuri@gmail.com

第3号

令和6年3月発行

あたごやま にこだちかひこうきこうじょうあと
～愛宕山・仁古田地下飛行機工場跡～



見晴台
愛宕山ふれあい遊歩道見晴台より浦野方面を望む

はじめに

子育て教育文化部会
部長 堀内善信
(浦野南団地)

仁古田 未来につなぐ大切なふるさとへの想い
愛宕山ふれあい遊歩道と
仁古田地下飛行機工場跡を訪ねて

川西まちづくり委員会子育て教育文化部会は、
地域の方のお話を聞く地域文化財学習会とフィールドワークを行いました

私ども子育て教育文化部会では今年も、川西地区の文化財を自分達の足で歩いて地域の皆様に紹介しようと計画をたてました。一昨年は室賀の笹洞城跡、昨年は小泉の大日堂と泉田博物館を紹介させていたただいたので、今年には仁古田地区の愛宕山と飛行機製造地下工場跡地をフィールドワークしようとして決まりました。

まずは、飛行機製造地下工場の工事当時を知る竹内實さん、愛宕山ふれあい遊歩道の整備に力を尽くされた横山勇徳さん、仁古田の歴史にお詳しい山野井功さんにお話を伺いました。数種類の貴重な資料もそろえていただきました。ただ残念なことに慶応元年に仁古田地区で大火災があり、多くの古文書が焼失してしまったようです。したがって他の地域の文書



資料や長野県史などを一つ一つ紐解いて調べていただいた貴重なものであります。私が横山さんのお話の中で特に印象に残ったのは、愛宕山の遊歩道についてです。遊歩道の整備の承諾を得るために隣接する舞田地区の方々に頭を下げて、平成二十年から二十一年にかけて遊歩道を造ったことは、さぞかし苦労があったと想像がつかしました。



- P1 部長メッセージ
- P3 愛宕山ふれあい遊歩道
- P5 仁古田地下飛行機工場跡
- P7 フィールドワークを終えて委員の想い

- 民話 「白馬に乗った愛宕様」
- マップ 愛宕山ふれあい遊歩道 イラスト ミヤザワツトム

編集・構成：久松久美子
学習会・フィールドワーク編集協力：山野井 功

川西まちづくり委員会
ホームページ



地下工場跡地のお話では、少年の頃、先輩の後ろにくっついて地下工場の穴掘りで、夢中になって兵隊ごっこをされていた様子が目に浮かんできました。また、当時推定で千六百人くらいの朝鮮の人たちが動員されていたようですが、彼らは意外にも良好なお付き合いをされていたそうです。

農繁期には田んぼの仕事も手伝ってもらっていたとのことと、私は強制労働させられて反感をもっていったのかと思っておりますので、何とも言えず嬉しく思いました。

さて十月某日、ありがたいことに天気恵まれ、山野井さんと竹内さんに案内役をお願いして愛宕山と飛行機製造地下



工場跡地をフィールドワークしました。

鳥居をくぐり歴史を感じる石段を登り、神楽殿、愛宕神社、御嶽山大権現、そして見晴台とめぐりました。

山野井さんにご案内いただいた中で特に興味があつたのは、愛宕神社です。創建は不明のようですが、記録では西暦千四百年（室町時代の初期、応永七年）以前には、既に創建されていたと言われている古い神社です。愛宕神社は火の神様で守護神は加具土命（カグツチノミコト）であるとお聞きしたのですが、その社殿の下に石が重なって置いてあります。下の石は一辺が五十〜六十センチくらいの三角形に近い上面が

平らな石で、上には直径四十〜五十センチくらいの丸い石が、いかにも人の手で祀りましたといわんばかりに置いてあります。誠に神秘的に感じました。また、見晴台では、皆で喉を潤し一休み。そこからは子檀嶺岳、飯縄山から小泉の城山まで一望できます。また今度ゆっくり来たいと皆一様に同じ意見でした。

それからふれあい遊歩道を下りお花畑に向かいます。私は日ごろの運動不足から少々膝にきていたのですが、仁古田の皆さんがご苦労して、木のチップを敷いてくださったので、下りがだいふ楽でした。

その後、地下工場跡地に移動、コンプレッサ設置予定地を



見学して、薬師山の西洞池方面の途中にある案内に沿って向かっていくと、フェンスに覆われた地下壕が現れました。

他にもいくつかの壕があったようですが、今ではここだけが安全に見られる場所のようです。また仁古田の地下工場は、八木沢地区からもトンネルを掘り進め、貫通させる予定だったとのことなので、相当な大工事を計画していたことが伺えました。

約八十年近くも前のことなので、地下壕の中はほぼ埋まっています。地面には水もたまり、先が十メートルくらいしか確認できない状況です。

当時ここに約三千人の人たちが、国のため、家族のために一生懸命ツルハシやスコップなどで穴を掘ったと思うと感慨深いものがあります。中には何の為にこんな仕事で動員を受けたかわからない人もいたと記述資料にありました。

その後、西洞池に移動しました。朝鮮人の飯場があった場所などを教えていただきました。それにしても、こんなきれいな池が近くにあったとは、私も含めて皆さんびつくりされていました。

最後に仁古田地区の皆様への愛宕山や地下工場跡に対する思い入れに敬意を表すとともに、今回講師や案内役を快く引き受けてくださった、竹内實さん、横山勇徳さん、山野井功さんに改めて書中をもちまして心より感謝を申し上げます。



愛宕山ふれあい遊歩道

「愛宕山ふれあい遊歩道」は、仁古田の南に位置する愛宕山に地域の人々によって造られた、自然や景色を楽しめる歩きやすい遊歩道です。

愛宕山は古くから仁古田の人々の暮らしと密接な関わりがありました。先代から手入れが続けられてきた山には愛宕神社をはじめ御嶽山大権現や蚕影社などが祀られています。仁古田地域の氏神様の諏訪神社と山の中腹にある神楽殿では神楽が奉納され、地域の人々の心のよりどころとなってきました。



愛宕神社

愛宕山の松くい虫の被害の拡大を機に、仁古田自治会では大切にしてきた山をこの先も長く親しんでもらえるよう、遊歩道の整備に取り組んできました。平成20年から遊歩道建設の検討を開始、翌年「愛宕山ふれあい遊歩道整備事業実行委員会」を立ち上げ、上田市内で最も早い時期から樹種転換を始め、平成22年から2年をかけ雑木の伐採や草刈りなどの作業、重機を使った整備、植樹や案内板の設置などを行い、平成24年に完成しました。完成後も植樹やウッドチップを敷くなどの整備を継続して行っています。愛宕山ふれあい遊歩道整備事業実行委員会は、令和5年度に上田市から、地域づくりに功労のあった団体として「まちづくり表彰」を受けました。



今年道標が新しくなりました

現在植樹した木々は大きく成長し、小学1年生が遠足で登り、近隣だけでなく遠方からも足を運ぶ方が増え、皆様に親しまれる遊歩道になりました。四季折々に移ろう景色は新緑から紅葉が楽しめる、冬の落ち葉を踏みしめて歩く道もよいものです。見晴台では浦野川に沿って青木、川西地域、上田市街地まで広がる素晴らしい景色を眺めることができます。ぜひ訪れてゆったり歩いてみてください。

地域の方のおはなし

愛宕山・仁古田の歴史と

愛宕山ふれあい遊歩道



愛宕神社の
成立はわかり
ません。

仁古田の歴史を見る上で重要な出来事は、江戸時代末期、慶応元年4月18日の大火です。浦野の方角から仁古田を見て、浦野川にかかる古郷橋（ふるきょうばし）を過ぎて一段高くなっている道からずっと上にかけて、仁古田村60戸のうち49戸が燃えてしまいました。諏訪神社の一角まで燃え広がったということです。仁古田の資料はその大火で全て燃えてしまいました。その経験から、地域の歴史を考える上で大切な資料を守るため、現在の仁古田公民館の土蔵は耐火式になっています。

また、仁古田は奈良時代から平安時代にかけて大水の被害に遭いました。浦野川の近く、岡橋の手前に今も白山社という地名があり、そこがもともと仁古田の集落があったところではないかと考えられます。大水を機に高台に移ったというのですが、正確なところはわかりません。



横山勇徳様



農、金井氏の住まいの所の沢というところで「金井沢」と呼ばれているのではないかと考えられます。愛宕神社の創建に、この金井氏が関係しているのではないかと思いますが、資料がないのでわかりません。

皆さんは愛宕山には登ったことがありますか。川西小学校1年生が春の遠足で登っています。とてもいい所です。

愛宕神社の鳥居から石段を300段ほど登って神楽殿があり広場になっています。愛宕山の樹種転換事業で枯れた松の木を切ったらきれいに神楽殿が出てきました。さらに神楽殿の前庭には蚕の神様、蚕影社があります。

なくつぶれ、礎石だけが残って
いましたが、地元の大工さん
によって元の礎石を使ってすば
らしい月見堂が再建されまし
た。

さらに上に御嶽山大権現が
あります。元日はちょうど石碑
の脇からご来光が見えます。そ
して標高567mの頂上に至
ります。少し歩くと大変にいい
眺めの見晴台があります。そこ
から遊歩道は日置電機仁古田
工場の上方をなだらかに巡っ
ています。

いい季節になったらぜひ歩
いていただきたいと思いま
す。

愛宕山の遊歩道建設のきつ
かけは、小泉との境で始まった
松くい虫の被害による松枯れ
でした。以前は産地に匹敵する
ぐらい出ていた松茸が、だんだ



愛宕山頂標識

尾根の向こうは舞田の地籍
なので、舞田の自治会長さんや、

愛宕山の遊歩道整備事業実行委員会」
を立ち上げました。
内組織として「愛宕山ふれあ
い遊歩道整備事業実行委員会」
となり、平成20年末に自治会
よう自治会で遊歩道を作るこ
のみに山に親しんでもらえる
樹を植えました。そして、多く
の人に山に親しんでもらえる
よう自治会で遊歩道を作るこ
とになり、平成20年末に自治会

ん出なくなりしました。山林火災
が起きた時でも山に入ってい
けるように、また、周辺への延
焼を防ぐためにも整備が必要
でした。



御嶽山大権現

10名ほどの地権者のお宅を
一軒一軒訪ね、「遊歩道整備
の際にお宅の土地に少し入
るかもしれないが了承して
ほしい」とお願いし、了解を
得ました。「へいどうぞ」
「我々も利用させていただ
ければありがたい」というお
話をいただき、ありがたく思
いました。

地権者を集めた総会で話し
合い、尾根伝いに松くい虫の被
害に遭わないような樹種に換
えていく「樹種転換事業」とい
うことをやりました。はじめは
木材として収入が得られるヒ
ノキ、カラマツを植え、次にサ
クラ、クヌギやナラなどの落葉
樹を植えました。そして、多く
の人に山に親しんでもらえる
よう自治会で遊歩道を作るこ
とになり、平成20年末に自治会
内組織として「愛宕山ふれあ
い遊歩道整備事業実行委員会」
を立ち上げました。
尾根の向こうは舞田の地籍
なので、舞田の自治会長さんや、

遊歩道の建設作業は平成
21年からわずか2年間で行い
ました。その間委員長と副委員
長は毎日のように動き、重機も
入れて遊歩道を造りました。山
の斜面に道を作るのですから
大変でした。整備費用は市の
「わがまち魅力アップ応援事
業」の補助金を使用しました。遊
歩道の管理は後々まで続くと
ので、現在、維持管理は「愛宕
山ふれあい遊歩道整備事業実
行委員会」を中心に他部署の応
援も得て行っており、神社境内
は氏子総代が管理しています。

愛宕神社の神様は迦具土命
(カグツチノミコト)、火伏せ
(火を防ぐ)の神様です。愛宕
神社は仁古田のどこよりも高
い所にあり、いろいろな神様が
祀られています。大火に遭った
歴史をもつ仁古田の人々に
とって、大事な大事なお宮です。

仁古田神楽

コロナ禍の延期を経て、令和5年9月、
5年ぶりに仁古田神楽が奉納されました。
会場となった仁古田公民館の舞台には
神楽殿の写真が印刷した背景幕が掛けら
れています。



鳥刺し



万才



音曲



宮神楽



お染



和唐内



祇園囃子

〔仁古田神楽保存会主催〕

仁古田飛行機製造地下工場跡

太平洋戦争末期、都市部の工場が戦災を避けるための移転工事が全国各地で一斉に行われていました。上田では、地震と空襲で大きな被害を受けた名古屋の航空機工場の移転工事、名称「上田付近三菱重工業株式会社第五製作所分散防護工事」、略して「ウ工事」と呼ばれる大規模な工事が昭和20年の6月から開始されました。

上田が飛行機工場の建設地に選ばれたのは、製糸業の衰退後に積極的に工場誘致を行っており、また当時戦況の悪化にともなう大都市の戦災を避けるための工場疎開が進められ、軍需工場の集積地となっていたこと、飛行場が近くにあり、丘陵が多くあつて敵機の攻撃を受けにくいこと、また軟かい地質で工事が進めやすい、農村で食料を確保しやすいなどの理由がありました。

本部を生島足島神社に置き、仁古田のほか、上田の西に位置する八木沢、東塩田、神畑、川辺の各地で工事が行われました。仁古田でエンジンを造り、東塩田から部品を運んで飛行機を組み立てて上田飛行場（現在の千曲高校周辺）から飛ばす計画でした。

仁古田地域の工場の区域は「愛宕山麓北側から西洞池上方に至る一帯」でした。工事が始まると兵隊や作業員が続々と入ってきて、静かな農村が急に騒がしくなりました。近隣の村から動員された人々や多くの朝鮮の人たちが作業に従事し、飯場（宿舎）や道路の建設、伐木、壕の掘削が急ピッチで行われました。住民も作業員の宿舎として家の一部を提供したり、工事に使う道具を供出するなどの協力をしました。20数本の壕が50〜100m掘られましたが、工事の途中で終戦となり工場は未完成に終わりました。現在、壕のほとんどは潰れ1か所が残るのみとなりました。ここでは柵が設置された壕の入口から内部をうかがうことができます。近くにコンプレッサー台の跡も残されています。

年月とともに遺構は劣化し、当時を知る方に直接お話を聴くことが難しくなっています。仁古田地下飛行機工場跡は、地域に住む我々が後世に大切に伝えていく戦争の遺構です。

【参考資料】「上田市誌」「上田市ホームページ」「仁古田の歴史」「上田地下飛行機工場」

地域の方のおはなし

仁古田地下飛行機工場跡と

工事のころのお話



私は1932年（昭和7年）

の生まれで91歳になります。昭和20年の飛行機地下工場建設の頃は78年前ということになります。

小学校時代は学校の行き帰りは「兵隊っこ（兵隊ごっこ）」ばかりしていました。5、6年

年上の人達が先頭に立って兵隊っこをやりながら、山へ登ったり「ずり山」に行つて遊んだり、日が沈んで暗くなるまで野山を駆け回っていました。戦争の頃の生きづらさはさっぱり覚えていませんでした。

国全体が戦意高揚の雰囲気の中にあり、小学校に入る前、兵隊の恰好をまねて背囊（はいのう）を負つて鉄砲を模した竹を持って、役場の庭で子供達30人ほどで集合写真を撮ったこともありました。当時の浦里村は村長さんが若く意欲的な方で、ドイツのヒトラー・ユーゲントが視察に来たり、武者小路実篤さんが「蜜と乳の流れる里、浦里」を書くなど世界的にも有名で

竹内 實様

した。

浦里小学校一年生の秋、もう冬に入ろうとする頃、亡くなった兵隊さんの村葬がありました。杉の葉で大きな祭壇が作られ、その杉の葉が燃える黒い煙がなんとなく嫌だった感じをいまだに覚えています。

浦野にあった図書館の前にドリル工場があり、飛行機のプロペラの輪にするところを作っていました。川西地区の若い人たちが5、6人勤めています。

兵舎が浦里小学校の西庭にあつて、兵隊さんが五つぐらい

ある大きな釜に湯を沸かして、シラミがたかった洋服を一日中炊いていました。飛行機工場の工事は、毎日兵舎から兵隊さんが何十人もの中隊で歩いてきて、浦野川にかかる古郷橋（きょうばし）を通つていきました。隊長さんはきさくな方で、我が家に2本ある樺の木陰で水彩画を描いていました。それは古郷橋と浦野川とその向こうに子檀嶺岳があつてきれいな絵でした。当時の村は本当にいい所、きれいな所でした。

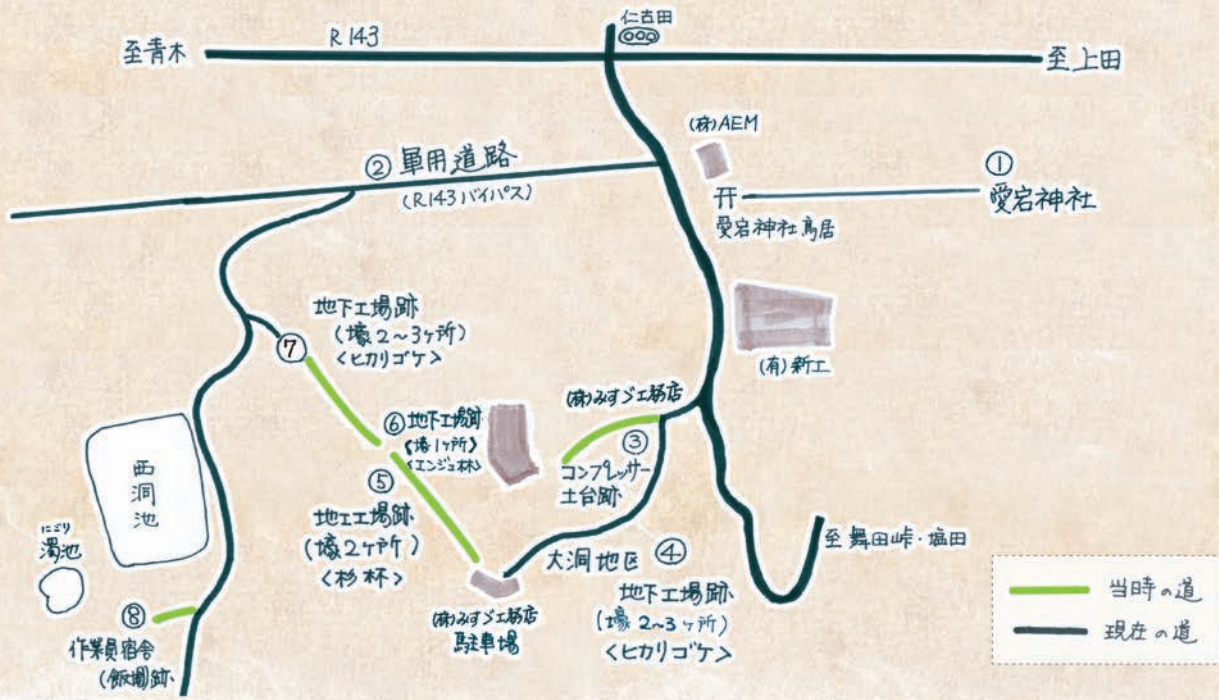
終戦後も少しの間、工事は続いていて作業員がいました。工事現場には終戦になってから行くことができませんでした。上級生と2、3回西洞池に行く途中の穴に遊びに行つて、3、4人いた作業員と話したり、爆薬を爆破穴に詰める2メートルぐらいの鉄棒で、「こうやるだ」なんて教えてもらいながら、一緒に工事のまねをしたりしました。それから工用のトロッキに乗るのがとても面白くて楽しみでした。

仁古田の人達は作業員の宿舎に民家の部屋や物置を貸していました。作業員は独身の人も家族で来ていた人もいました。中には朝鮮の人もいました



かつての軍用道路

仁古田地下飛行機工場跡 概略図



⑦ 地下飛行機工場跡 ただひとつ残っている壕

が、朝鮮人とか日本人とかそんな区別はさらさらありませんでした。

家の裏に大きい梨の木があつて、その年は梨がなくなつて、朝鮮のおばさんたちが「これはなし(無し)の木だ」と冗談を言いながら笑っていたのをいまだに覚えています。せんげ(堰)が朝鮮の人達の社交場になつていて、わいわいにこやかに衣服を足で踏んで洗濯をしていました。また、食べ物

が乏しかったので熟れた柿や落ちた柿も食べていました。終戦後は栽培したコウリヤンを、せ

んで洗つていて「あれが朝鮮の人が食べるコウリヤンっていうものか」と地元の人

は珍しそうに見ていました。鍛冶屋の人(鉄工)が近所の家の鋏柄を直してくれたりもしました。会話は日本語でしていたと思

います。母は「今こうに言つてった(こんなふうと言つていったよ)」と言つていましたし、我が家は道のそばだったからよく話をしていました。

私らは子供だったから「兵隊っこ」きりで、親は農業つきりだった。朝鮮の人たちは終戦後に稲刈りに一家で手伝いに来てくれたり、一緒にお茶を飲んだりしました。私が見たかぎりでは朝鮮の人達を誰も避ける様子はなく、仲良くやつたのじゃないかと思

います。当時と今の飛行機工場の周辺の様子をお話しします(竹内さんによる上記概略地図参照)。国道143号線から舞田峠へ向かう道の途中にある

愛宕神社(①)の鳥居のあたりから、軍用道路(②)が西洞池の端までまっすぐ開いていました。戦後に道幅が拡がり青木の道の駅のあたりでつながつて、国道143号バイパス(県道)になりました。

大洞地区の地下工場建設地には今は広い道ができましたが、当時は違っていました。今、道や駐車場になつている所はずうっと土手で、コンプレッサ(③)は山の際にありまし

た。山際の向こうに畑があり、そこにも穴が二つ三つありました。その場所にはヒカリゴケがあつてとてもきれいでした。山にきのこを採りにいったときなんかによく見に行つたものです(④)。

⑤番「地下工場跡2ヶ所」つていうのが私の家の畑の場所です。杉を植えて林になつています。間を歩いていくと西洞池の下の地下工場跡へつながつてい

ると思います。⑥番「地下工場跡1ヶ所」と書いてある穴が一番大きくて中に入ることができました。直径5m高さが4m位の半円で、奥行が10m、20m位あつたと思います。途中が崩れて水がた

まっています。終戦後にりんごを植えて畑にして、その水をポンプでくみ上げて消毒や灌水に使っていました。二つの穴が山に向かってありました。それは最初に崩れてしまっていて入れなくなっていました。

西洞池に向かう途中で地下工場跡の標柱が建っていて、そこを入った所が⑦番です。ここにもいくつも穴がありました。今は、ただひとつ残っている壕があり、入口が鉄柵で補強され、外から見学できます。

⑧番には作業員の宿舎がありました。「バラック」という言葉をその頃覚えたような気がします。西洞池の上の濁池の所にあり、池の水を生活に使っていました。杉林の中に相当広いバラックがあつて、その中に作業員が大勢いて、床に牛の皮が広げているのを見ました。

仁古田の土は石ころと普通の赤土が混ざって柔らかく、どうしてここに地下飛行機工場を造ろうと思ったのか、早く工事が進むと考えたからなのか。我々には全然わかりませんでした。

(注) 現在、概略図の「当時の道」は整備されておりません。

小野沢 忠美(ひばりヶ丘)

太平洋戦争の末期。昭和二十一年六月頃から八月十五日の終戦の頃まで、仁古田地域には、二十数本の壕が掘られていたそうです。当時日本は南海地震とB29の爆撃によって、名古屋の航空

フィールドワークを終えて

～子育て教育文化部会委員の想い～

機工場が全滅し、日本陸軍はこの工場を空襲に耐えるようにに移転させることにし、上田周辺を選んで六月頃から工事を開始したとのこと。工事はシャベル・ツルハシ・ウィンチ・トロツコなどを使うだけの手作業を主とした方法で、機械といえばコンプレッサー削岩機が多少あったとのこと。作業にたずさわった人は日本人と強制連行した朝鮮人労働者千六百人があたり、彼らは西洞池の奥の濁池の粗末な飯場でまじい食事、炎熱の作業場で毎日1.2mから1.5m掘り進めたとのこと。50〜100m掘ったところで終戦になったそうです。現在仁古田地区に残っている壕は1ヶ所とコンプレッサーの台座が残っ



③ コンプレッサー土台跡

ています。当時のことを知る人は少なく、今後も地域の子供たちに上田地下工場の歴史を長く伝えてほしいと思います。周辺にはワイン用のぶどう畑も有り、おだやかな平和を感じた一日でした。

草野美智子(藤ノ木)

十月十四日秋晴れ。すがすがしい空気の中、愛宕山の頂上へ出発。

歩き出し間もなく案内板を見。可愛い字で「愛宕山ふれあい遊歩道」と書いてある。誰が作った地図だろう。今まで知らなかったがこんなにもたくさん道があるのか。頑張つて石段三百段コースを行く事とする。鳥居の奥に石段の道が続いている。一步一步歩いていく。なんとか登りきると大きな神楽殿。そ

して愛宕神社。空気が澄んでいる。広場がひろがり、子供達の声が聞こえてくるようだ。



⑦ 壕内部の様子

さらに奥へ進むと不動明王、宝物殿、天神宮。再建された月見堂。いちばん上に御嶽山大権現の石碑。ここから見るご来光が素晴らしいようだ。見晴台から見景色はなんと壮大で、素晴らしかった。

私達の住むふる里。昔と今では景色も変わっているだろうが、この里山をずっと守っていききたいと感じた。是非訪れてもらいたい場所である。歴史を話してくださった皆様、本当にありがとうございました。

小山 梨絵(浦野南団地)

十月十四日まちづくり委員会の今年度のメンバーで、愛宕山ふれあい遊歩道と仁古田地下飛行機工場跡へフィールドワークに行きました。まず初めに仁古田愛宕山の愛

宕神社に行きました。

ここは近隣の保育園や小学校のお散歩や遠足等で登っている場所でもあります。登り口にある三百段ほどの石段は、大人の足では踏面が狭く感じましたが、地域の方に管理された遊歩道は歩きやすく、とても良いお散歩コースだと思いました。神楽殿月見堂、愛宕山の頂上の景色も良かったので、まだ登ったことがない方にはぜひ一度お子さんと来て頂きたいと思います。

次に仁古田飛行機工場跡地へ。事前の勉強会で仁古田の竹内實さんから当時のお話を伺ったからフィールドワークだったので、当時を想像しながら見学することができました。今では考えられない程の労働者がこの地域に住み、地下工場の工事はほぼ手作業であったそうです。



お花畑にはアサギマダラが好むフジバカマを植え、蝶を呼ぶ活動をしています。

りも安全に登りきらなければと必死になりながら登っていきました。

愛宕神社だけでなく不動明王など様々あり、どんぐりなどがお供えしてありました。愛宕山では月見堂や見晴台など、とても眺めの良い場所や休憩にちょうど

よい場所がありました。

仁古田飛行機工場跡は、奥が見える範囲では行き止まりのようでしたが、当時掘ったものが残されていました。現在、戦争をしている国もありますが、この日本でも戦争があり、身近なものだったのだと改めて感じました。

平林 陽子(越戸)

愛宕山遊歩道と仁古田飛行機工場跡をフィールドワークしました。

事前に愛宕山や仁古田飛行機工場跡に詳しい方の話を聞いて勉強しました。フィールドワーク当日は、話で聞いていたことを思い出しながら、また説明を聞きながら見て、学ぶことができました。

愛宕神社までの階段をかぞえながら登っていいこうと思いましたが、足をかけるところもないぐらい幅がなかったりななめだったりして、かぞえるよ

標高が低いため、松食い虫により枯れてしまい、現在はヒノキ、カラマツ、サクラなどを植えたとのことでした。

途中に神楽の舞台があり、昔はここで神楽を演じたそうです。すごい場所だったんだと感心しました。愛宕神社で家族の安全をお参りして来ました。

頂上にはベンチもありましたが、木が成長し茂っており、遠くが少し隠れてしまい残念に感じました。

聞くところによると愛宕山の山頂は、五百七十二メートルと書いてある本も有るが、国土地理院地図を調べると、五百六十七メートルくらいが適当かなとのことでした。

帰り道は車が通れる道があり、これは愛宕山遊歩道整備事業委員会が二年間で重機を使い遊歩道を作ったとのことでした。いろいろな説明を聞き、二時間ほどになってしまいました。有意義な散策でした。

仁古田飛行機工場跡地においては木が茂っていて昔はこの辺に工事用トンネルなどあったところだと説明を聞きました。コンプレッサの土台の跡地と一カ所穴を掘っていた場所が残っているだけでした。今回竹

内さんにお話をお聞きしたことを記録として残しておくことが大事だと痛感しました。

柳澤 裕理(仁古田)

愛宕山に登るのは小学校の遠足以来。松くい虫の被害に遭わないように樹種転換したのことで、神楽殿から見える樹木、見晴台での樹木のむこうに広がる景色は、登山者の疲れを癒してくれるようなすばらしいものでした。案内板のかわいらしさや

所々にお供えしてあるかわいらしい石や木の実なども愛宕山登山の見どころの一つかなと思います。子供の頃にはなかった遊歩道はとて

も歩きやすく、散歩コースとしてはぴったりの登りやすさ。またチャレンジしたいと思えます。

地下工場跡地については見るのは初めて。仁古田側と八木沢側から穴を掘り進めたとのこと、壕の内部は入口付近しか見えませんが、穴の側面はしっかり固まっていて長年の雨や風にも耐えている様子。仁



見晴台で。写真前列一番左が案内してくださった山野井功さん。

古田の地質はやわらかくてもろく、崩れるのも早いと聞いていたのでもろく残っていることにびっくり。やわらかい土だから早く楽に掘れるということから仁古田が選ばれたのではないかと聞いていますが、当時の様子は今では想像できないくらい過酷な現場だったそうです。

仁古田で生まれ仁古田で育った私。けれどもまだまだ知らないことだらけだと痛感しました。仁古田の過去に触れ、さらには仁古田の魅力にも触れることができ、貴重な経験をさせていただけの一日となりました。